

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所 新健康協会
発行人
〒813-0001
福岡市東区唐原6-7-1
TEL:092-661-1531
https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様(当協会の教祖)が、昭和二十三年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

幸福

古往今来、いかなる人間といえども幸福を冀わぬ者はあるまい。幸福こそ実に人間最初にして最後の目標であるからである。幸福を得んがための学問であり修養であり努力であるにかかわらず、満足に掴み得る者は果たして幾人あるであろうか。大部分は幸福を獲得せんと思いつつ、かえって不幸の境遇にあり、解決の喜びを遂げらるる事なくして不帰の客となるといのが一般人の現実である。然らば幸福を得るといふ事は、そんなに難しいものであろうか。私は否と言いたいのである。そもそも幸福とは、病氣、貧乏、鬭争、この三大問題の解決が基本である事は誰も知るところであるが、言うはやすく実現は難く、大抵は諦めるの余儀なきに至るのである。一切は原因があつて結果がある。勿論幸福とても同様であ

るとすれば、その原因をまず知る事こそ問題解決の出発点であらねばならない。従つてその原因が不明である以上、何程努力しても実現の可能性はないに決まつている。然らばその原因とは何か、それを私は述べてみよう。昔から言うところの善因善果、悪因悪果とは実に千古を貫く真理である。この理を知つて他人を幸福にするために努力する事こそ、自身を幸福にする絶対的条件であらねばならない。ところが、世の中には他人の不幸を顧みずして自分だけが幸福になろうとする人間があまりにも多い事である。一方に不幸の種を蒔きつつ幸福の実を得ようとするのであるから、全く愚かな話である。丁度水を押すと手前のほうへ流れ、引くと先へ流れるのと同様である。宗教が人間にとつていかに必要であるかは、この点にあるのである。即ちキリスト教の愛とよい、仏教の慈悲というのも、他人を幸福にする利他的観念を植え付けるのが本義である。このような簡単な道理も人間はなかなか認識し難いものである。そこで神様や仏様は種々の教義を作り、心言行の規準を示し、見えざるもの存在を教え、取次者をして誠心誠意信仰に導くのであるが、一人の人間を救うにも容易なもの

ではないのである。それも無理はない。一般人は見えないものは信じないという教育のもとに唯物思想に固まつているから、なかなか耳を傾けようとはしないのであつて、迷夢に鎖され暗黒の中を彷徨い苦しみながら、結局帰らぬ旅路へ赴くのであるから、誠に儂い人生というべきである。

然るに、生あるうちに歡喜に浸り、法悦の境地に住し、長寿を得、真の幸福者たり得る方法がありとすれば、正にこの世は天国であり、生き甲斐があるといふべきである。しかしながら言うであろう。このような苦の娑婆にいて、そんな幸福者たり得るはずがないと諦めているのが一般人の考えであろう。しかし、我等は断言する。右のごとき幸福者たり得る秘訣のある事で、それを御伝授する手びきとして、まずこの雑誌を提供するのである。

浄霊体験記 2ページ 3ページ

- 救われて46年浄霊の奇跡を見る...
- 薬漬けから解放され幸福へたどり着く
- 治らなると言われた病苦から救われる...

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

視神経の悪化・骨折

救われて46年
浄霊の奇跡を見る…

豊中出張所
柳田葉子 (67)



昭和五十三年の十月頃、私が二十歳の時のことです。

急に左目に圧迫感があり、おかしいな…と思っていたら、目の前が徐々に欠けていき、真暗になってしまいました。眼科に行つて調べてもらいましたら「視神経が悪い…」ということになり、一カ月程入院して服薬をしたのですが、治りませんでした。その後、眼球注射も二回程したのですが、結果は同じで効果はありませんでした。その後も何とか治したいと思案したものの、これといった良い療法はなく、空虚な日々が流れて行きました。

発病してから七カ月経た昭和五十四年の五月頃、大学時代に同じクラス

だった小野由紀子さん(会員)に会う機会がありました。小野さんは私の状態を知り「新健康協会で浄霊というのがあるから、まずは受けてみたら…」と話してくれたのです。

私は当時福岡県福岡市に住んでいたので、早速福岡支部を訪ねました。

本当にこれで良くなるのだろうか…という思いもありましたが、浄霊を紹介してくれた小野さんも以前は体調が悪かったのです。その小野さんが元気になつていく姿を見ましたので、自分にも何か変化があるかもしれない…と思ひ、週に一度の割合で支部に通い、浄霊を受けました。

浄霊を受けると、頸部のシツシンや風邪引き等、種々の変化がありました。私は中学一年生の頃から肩凝りがひどく、凝ると不快感にさいなまれる状態でした。

このシツシンや風邪引きは浄化作用といつて、体内の毒素がシツシンや咳、タン等で体外に出ることで、体の中から健康になる…ということですが、正にその通りで、中学一年生から悩んでいた肩凝りがとても楽になつたのです。私はこうした体験から、今後も浄霊を続けていき、自分でも浄霊が出来るようになりたいと思ひ、昭和五十四年九月三十日、二十一歳で入会しました。

昭和五十七年、浄霊を知つて三年が過ぎましたが、その頃も浄霊を続けており、浄霊を受けると気持ちが良い…と感じるようになりました。

おかげ様で悩んでいた目の状態も良くなり、明るく見えるようになりました。あんなに狭かつた視野が広がつたことに日々感謝するばかりで、心から明主様に感謝申し上げます。

その他にも、扁桃腺炎と歯痛のため、顔と歯茎が腫れたことがありました

が、浄霊を受けているうちに、鼻汁が大量に出て、どちらも良くなりました。このことがあつてから、体のだるさもほとんどなくなりました。その後、頭部にシツシンが出来た時も短期間で良くなりました。

手術せずに良くなる…

これは五年前のことです。令和二年の十一月、私は自転車に乗っている時に転倒してしまい、左腕を固い鉄のよな物で強打しました。そのため左腕の感覚がなくなり、思わず左腕あるよね…と確認した程です。体を何とか動かしたあと、その場で自己浄霊をしていますと、体を少しずつ動かせるようになったので、タクシーで豊中出張所へ行き、浄霊を受けました。すると、最初よりも左腕の感覚が戻つていきました。

その後、近くのクリニックで検査をすると、左腕上腕部が斜めに折れており、骨と骨の間は三センチくらいあつたので、「これは手術しないと、絶対に元に戻りません…」と言われました。

しかし、私は今回も浄霊を受けたいと思ひ、次の日から出張所に行きました。浄霊を受けると、いつも左腕が

ギューツと圧迫される感覚がありました。そして、二週間過ぎた頃から変化があり、一カ月半を過ぎると手の腫れがひき始めました。

骨折をして二カ月が過ぎた頃、腕の状態も気になつたので、再び病院へ行き、検査をすると、離れていた骨と骨の隙間が殆ど狭まり、その間に別の小さな骨が出来、骨と骨がくっついていました。

私は驚きを隠せなかつたのですが、

病院の先生も「絶対に手術しないと繋がないと思つていました…」と、驚いていました。

おかげ様で、ケガから五年が経ちますが、左腕の状態は元に戻り生活が出来ております。このケガを通して、浄霊の奇跡を見せて頂きました。今回、自分自身が体験してみても、本当に浄霊は素晴らしいと改めて感じました。

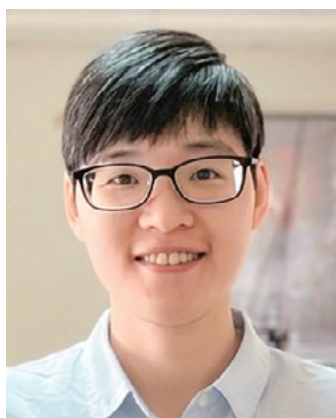
明主様、誠に有難うございました。(大阪府豊中市)

台湾

回帰性リウマチ

薬漬けから解放され
幸福へたどり着く

台中出張所
林欣瑩 (54)



私は大学時代から背中がよく辛くなりましたので、ひどくなる前に早く治療しようと思ひ、病院でいろんな検査をして解決したいと思つていました。

しかし、その問題を解決することが出来ませんでした。それだけでなく、今度食べる時には下あごが痛み始め、指の関節も腫れて痛むようになりました。

た。この時も、多額の費用をかけて治療しましたが、治りませんでした。

最終的な検査の結果、お医者さんから「回帰性リウマチです。この病気は永遠に治らないので、一生薬を飲まなくてはなりません…」と言われました。

私は治療のために薬を飲み始めましたが、このまま薬を止められなくなつてしまふのではないかと副作用がおきしてしまうのではないかと不安な気持ちになりました。それでも薬を使うしか方法がなく、十年ほど薬を飲み続けました。

二〇一三年九月、私が四十一歳の時のことです。この日、私は知り合ひであつた台北支部の斎さん(会員)から浄霊を勧められました。私は台中に住んでいましたが、試してみようと思ひ、台北支部に行つて浄霊を受けました。浄霊を受けると体調が良くなるのを感じたので、私は薬を止めて浄霊を続けてみようと思ひ、実行しました。

すると辛かつた痛みを乗り越えることが出来、リウマチの症状が楽になつたのです。私は嬉しくなり、自分自身でも浄霊を受けられるようになって、さらに周りの人にも浄霊をしてあげたい…と思ひ、二〇一四年一月十一日に入会しました。

入会後、毎日自分でよく浄霊を受けました。指の関節の辛さは段々楽になりました。夜もぐっすり眠れるようになりました。本当に有難かつたです。

私は浄霊で元気になりました。そしてこの健康法で人を助けられるようになりたいと思ひ、今では台中出張所で多くの方を浄霊しています。

こうして浄霊を通して、神様の存在を知ることが出来、幸福へたどり着けたことを心から感謝しています。

明主様、本当に有難うございました。(中華民国台湾省台中市)

ネパール

扁桃腺炎

治らないと言われた 病苦から救われる：

カトマンズ支部
カンチャ・ラージ・スレスタ (53)



一九九七年に、急に喉の痛みが始まりました。すると段々と喉の痛みが悪化していき、食事をするのも辛くなっていきました。私は気になり、病院で検査をすると、お医者さんから「扁桃腺炎になっているので、七日間抗生物質を服用して下さい」と言われました。私は言われた通り七日間抗生物質を服用しました。しかし、効果はありませんでした。すると、「さらに二週間、抗生物質を服用したら良くなります」とお医者さんが言うので、その通りにしましたが、やはり効果はありませんでした。

その後もお医者さんの言う通りに、いろんな方法を試しましたが、依然として状態は変わらず、改善しませんでした。それどころか、長い間抗生物質を服用していたので、うつ病になってしまいました。私はお医者さんと相談し、別のお医者さんを紹介してもらいました。

十年続いた苦しみ：

別のお医者さんに診てもらおうと、「あなたの病気は慢性で不治であり、一生続くものだ」と言われました。私は心配になり、眠ることも出来ない状態になりました。

その後も違う病院に行くと、「一カ月薬を飲めば治る」と言われましたが、やはり改善しませんでした。知り合いから、「きつとガンだろう」と言われ、これだけの治療をしても治らないから、もしかしたらそうなのかもしれない……とますます不安になりました。

私はもう長くは生きられないだろうという考えが起りましたが、妻や息子たちはどうなってしまうのか……とも考えました。それだけではなく、治療費もかかり、借金もしなければならぬ状態が苦しい日々でした。

結局、他の病院で治療しても効果はなく、「手術をしなければならぬ……」と言われましたが、私は怖くなり、「家族と相談します」と言って、家に帰りました。妻から、「お医者さんは何と言っていましたか」と聞かれましたが、返事も出来ませんでした。

私は、このまま病氣と痛みの人生を送るのは、とても難しいことだと気付きました。どうせ死んでしまうのであれば……と思い、薬を飲むのも止めました。

私はこうして十年間、多くの痛みと苦しみの中で過ごしてきました。もう生きていけないと思って、妻に「私が死んでも子供たちを愛して欲しい……」

と言ったこともありました。

二〇〇七年の七月二十六日、私は友人とレストランに行きました。友人は「何か食べましょう」と言ったのですが、私が「お茶だけでいい」と言うのと、「どうして食べないの？ お腹が空いていないの？」と言うので、私は扁桃腺炎になって、塩を入れた食べ物を食べることが出来ないことや今までの苦しみをすべてを話しました。すると友人が、浄霊のことを教えてくれました。私も以前に浄霊のことを聞いたことはありましたが、浄霊で治るのかな……と思っていたので、支部には行ったことがありませんでした。そのことを友人に話すと、「まずは浄霊を受けてみよう」と言ってくれました。

食べられることがありがたい：

友人から話を聞いた十日後の八月五日、初めてカトマンズ支部へ行きました。カトマンズ支部で浄霊をされたというラビ・クマル・マナダールさんから「今日はどうされましたか？」と聞かれましたので、私はこれまでの苦しみを全て話しました。ラビさんから「ぜひ浄霊を受けてください」と言われましたので、私は浄霊を受け始めました。しかし、私はぜんぜん浄霊のことを信じる事が出来ませんでした。たくさんの病氣が、手をかざすだけで良くなるのかな……と思っていました。それでも浄霊を続けてみようと思いい、その後も浄霊を受けました。

すぐには何も感じなかったですが、一週間経つと、体が少し楽になったのが分かりました。私は何だろう……と思

いながら、毎日浄霊を受けていくうちに、徐々に体が軽くなっていききましたので驚きました。私は心身共に満足し、毎日カトマンズ支部へ行くようになりしました。

すると、私の喉にあった小さな傷も良くなっていききました。食べ物も美味しくなっていきました。スープに肉を入れて食べましたが、喉への影響はありませんでした。こんなに美味しい物を食べることない……本当にそんな思いで、食べられることの有難みが心に染みしました。こうして何でも美味しく食べられるようになったので、体力も増していききました。

それから六週間後、扁桃腺が腫れることが一度だけあったのですが、この時も浄霊を受け、二日間で良くなりました。すると、それからは扁桃腺が腫れることはなく、現在も健康に過ごせることが出ています。

妻と息子たちは、私が健康になったことをとても喜んでくれました。私は、明主様からこのような奇跡的な力を頂き、心から感謝申し上げます。そして二〇一〇年八月十四日、会員になる幸運を頂きました。

会員として活動する中で、様々な病氣に苦しむ方々に、私は浄霊について説明し、支部に案内しています。その多くの方は浄霊で健康になっています。

おかげ様で私は、酸っぱいもの、辛いもの、油っぽいもの、時にはお酒も、心ゆくまで食べられるようになりました。それだけでなく、私の商売も良くなっていきました。

私は今でも浄霊を受け、生きている間は続けようと思っています。

十年以上苦しんだ病氣を救ってくださった明主様に心から感謝を申し上げます。

(ネパール・カトマンズ)

浄化作用

人間には体内の毒素 (= 不純物) を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素が鼻水やタンとなって排出されるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。



自然農法

自然農法体験談



熊本支部
佐藤典二(68)

自然農法を始めたきっかけ：

私は大分県竹田市でお米と野菜を自然農法で栽培しています。
昭和五十一年、十九歳の時に農業を始めて五十年が経ちました。当初は化学肥料や農薬を使用して栽培していましたが、体の調子が悪かったことがきっかけで自然農法を知ることになりました。
平成十八年、体調不良だった私は、病院に行っても思うように良くなりませんでした。そんな時、新健康協会の会員さんとお会いし「浄霊」を知りました。浄霊を受けると体が徐々に楽になりましたので、その後も浄霊を続けていると、「自然農法」の話も聞くようになり、私も自然農法をやってみよう...と思ったのが始まりです。

作物に寄り添う

全ての田んぼと畑をいきなり自然農法に切り替えることは難しかったので、徐々に範囲を広げていきました。自然農法を始めてから試行錯誤の連続で大きな不作になったこともありましたが、それでも、私は稲や野菜が育つお手伝いをしたい...と丹精込めて作物に寄り添いました。
自然農法を始めて五年が経った頃から、年々土が良くなってきていると感じています。水不足で収穫を諦めた時もありましたが、土としっかりした苗のおかげで、平年並みの収穫を得ることも出来ました。感謝の一言につきます。

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てることで、自然力を生かす農法です。

自然界の素晴らしさを実感：

自然界の素晴らしさでお伝えしたいのが、お米が出来る神秘です。お米は受粉してはじめて出来るものですが、苗の茎の末端、根が生えている部分に、人間では開発することが出来ない素晴らしい機能が宿っているのです。米を作るといことは、自然界の力と神の力である神秘的な力があつてはじめて出来ることと実感しています。

私は、この神秘的な力の素晴らしさ、土も年々上質になっていく姿を目の当たりにし、「本当にこの自然界というのは、うまく出来ているなあ」と思います。私は、この自然に立ち向かうのではなく、素直に寄り添っていく生活そのものが大事であり、これからの日本の農業が成り立っていく道ではないかと思えます。

おかげ様で、自然農法で育ったお米や野菜を食べ頂けた方から、「おいしい」「ありがとう」との励ましを頂き、それが次へ進む力となっています。これからも、きれいな空気、きれいな水、きれいな土で育ったお米や野菜をより多くの方に食べて頂けるよう頑張っていきたいと思えます。



お米の苗を手に話をする佐藤さん

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにすることができます。

歌川広重「近江八景」之内

《唐崎夜雨》

「東海道五拾三次」や「名所江戸百景」などの叙情性豊かな名所絵のシリーズで知られる浮世絵師、歌川広重。三代半ばで本格的に名所絵に取り組みようになって、一躍人気絵師となりました。本作はまさにそうした人気を集めはじめた、天保五年（一八三四）頃に出された「近江八景」のうちの一図です。

近江八景とは、中国の景勝地である瀟湘の八通りの景観を絵にした「瀟湘八景」になぞらえ、「秋月」「夕照」「晴嵐」「帰帆」「晚鐘」「夜雨」「落雁」「暮雪」にあたる琵琶湖周辺の水の情景を八つ選んだものです。この《唐崎夜雨》は、夜雨の場面選ばれた唐崎神社が舞台となっています。画面の左上には、八景選定のきっかけとなった江戸初期の関白・近衛信尹の和歌が記されています。

夜の雨に 音をゆづりて 夕風を
よそにそだてる 唐崎の松

ここに詠まれている「唐崎の松」とは本図の主役といえる画面中央の巨大な松のこと。初代の松は、六九七年と伝えられる唐崎神社の創建よりも前に植えられていたとされる霊松です。十四世紀後半の『太平記』や謡曲「自然居士」にも「唐崎の一松」の記述があるほど、古くからこの場所の目印となっていました。さらに時を遡ると、続拾遺和歌集に収められた前大納言為家の和歌にも登場しています。

我みても 昔は遠く 成りにけり
共に老木の 唐崎の松

松は常緑であることから、不老長寿の象徴であり、中国の神仙思想にある蓬莱山とも結びつけられる神聖な存在ですが、こうした和歌をたどってみると、長く生きて老いる自分と重ね合わせて心情を語りたくなるような近しさも感じられます。

本図では、強く降り続く雨を思わせる、真っ直ぐ落ちる直線のなかに、松のシルエツトが浮かび上がる構成になっています。輪郭に近いほうが濃く、中央に向かって白っぽくなるグラデーションは、拭きぼかしという技法が用いられており、大きな音を立てて降りしきる雨の夜、朧に煙る老木の趣きが表されているのです。松尾芭蕉は「辛（唐）崎の 松は花より 朧にて」という句を残していますが、広重はこれらの歴史をすべて包み込むようなイメージを作り上げているように思えます。



解説 松田愛子

晴明会館(美術館)のInstagramははじめました。



晴明会館 「ゆめのうき世に」後期展

期間.. 令和8年1月6日(火)〜5月17日(日)

※晴明会館お問い合わせ ☎(092)661-1535